

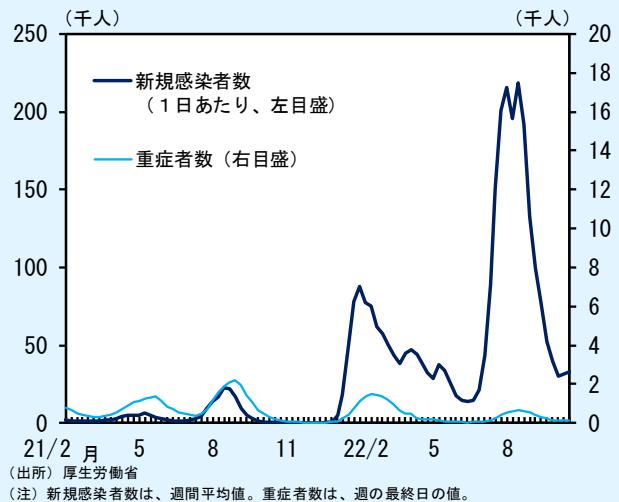
（BOX 2）新型コロナウイルス感染症と個人消費の最近の関係

本年7月後半から8月前半にかけて、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は大幅に増加し（図表 B2-1）、旅行や外食などのサービス消費には下押し圧力が加わった。もっとも、その下押しの程度は、過去の感染拡大局面と比べれば、人出の顕著な減少がみられないもとで小幅にとどまった（図表 B2-2、前掲図表 33、34、35）。

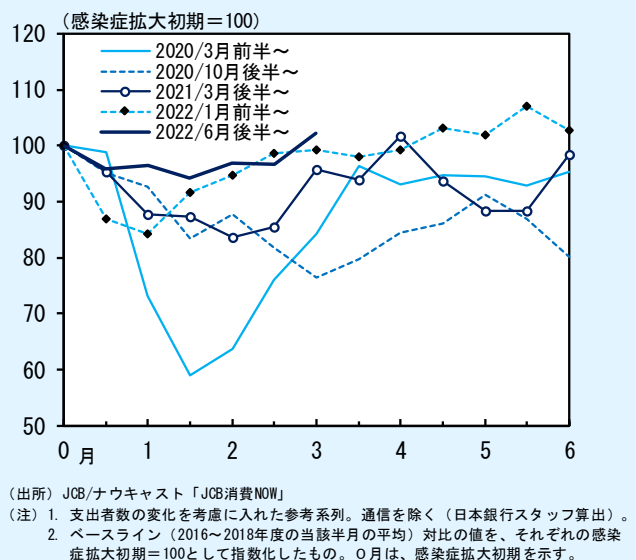
このように感染拡大下での人出や個人消費の急減を回避しつつ、8月下旬以降は、新規感染者数が減少傾向をたどっていることを踏まえると、わが国でも、感染抑制と消費活動の両立が進展していると考えられる。

先行きの個人消費を展望すると、物価上昇の影響を受けつつも、感染抑制と消費活動の両立がさらに進み、雇用・所得環境も改善していくもとで、行動制限下で積み上がってきた貯蓄にも支えられて、ペントアップ需要が顕在化していくと考えられる。感染症下で控えられてきた旅行や外食などへの潜在的な需要は強いとみられ、政府による需要喚起策もこうした需要の顕在化を後押しする方向に作用するとみられる（図表 B2-3）。ただし、今後の感染症の動向次第では、高齢者を中心に感染症への警戒感が根強く残る可能性がある。さらに、最近の物価上昇も踏まえると、ペントアップ需要が顕在化する時期やその大きさを巡る不確実性が高い点には留意する必要がある。

図表B2-1：新規感染者数と重症者数



図表B2-2：サービス消費の局面比較



図表B2-3：感染収束後の活動希望

